

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

聖国大第23 番 1040 号
令和 5 年 10 月 5 日
開設者名 学校法人聖路加国際大学
理事長 佐々木 新一

聖路加国際病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号
氏名	学校法人聖路加国際大学 理事長 佐々木 新一

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

聖路加国際病院

3 所在の場所

〒104-8560 東京都中央区明石町9番1号
電話(03) 3541 - 5151

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
・上記10,11については、内科において「アレルギー・膠原病科」を設置し、診療を行っている							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科							
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	心療内科	2	腫瘍内科	3	緩和ケア内科	4	形成外科	5	病理診断科
6	臨床検査科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
				520	520

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	395	15	410	看護補助者	100	診療エックス線技師	0
歯科医師	6	1	7	理学療法士	23	臨床検査技師	102
薬剤師	53	3	56	作業療法士	7	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	10	その他	0
助産師	67	1	68	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	820	22	842	臨床工学士	36	医療社会事業従事者	8
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	24
歯科衛生士	5	0	5	歯科技工士	1	事務職員	299
管理栄養士	13	1	14	診療放射線技師	57	その他の職員	6

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	37	眼科専門医	4
外科専門医	20	耳鼻咽喉科専門医	3
精神科専門医	1	放射線科専門医	4
小児科専門医	15	脳神経外科専門医	8
皮膚科専門医	3	整形外科専門医	7
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	21
産婦人科専門医	16	救急科専門医	12
		合計	159

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (石松 伸一) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

- ・聖路加国際病院 2003～2009年セーフティマネジメント委員会(医療安全管理委員会)委員としてインシデントの根本原因分析(RCA)の実施
- ・聖路加国際病院 2002～2005年医療ガス委員会 委員長
- ・聖路加国際病院 2010年～2020年救急・集中治療部門運営委員会委員長として急変WG活動から院内急変事例の減少を実現
- ・2008年日本救急医学会 診療行為関連死の死因究明等の在り方検討特別委員会(有賀 徹委員長) 委員
- ・聖路加国際病院 救急部部長、救命救急センター長、集中治療科部長としての医療安全管理の経験
- ・2021年管理者就任以降、セーフティマネジメント委員会(医療安全管理委員会)に委員として出席

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	379.5 人	0.6 人	380.1 人
1日当たり平均外来患者数	2134.7 人	55.9 人	2,190.6 人
1日当たり平均調剤数		1092.3	剤
必要医師数		157.0	人
必要歯科医師数		3	人
必要薬剤師数		14	人
必要(准)看護師数		263.1	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要					
			病床数					
集中治療室	224.04 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	8床	有	有	有		
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	21.8	㎡	病床数	2床		
	[移動式の場合]	台数	13	台				
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	78.23			㎡		
	[共用室の場合]	共用する室名						
化学検査室	230.9 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動分析装置クナライザ [®] 、乾式臨床化学分析装置、全自動糖分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計、浸透圧分析装置、分析前工程統合管理モジュール				
細菌検査室	108.72 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動細菌同定検査装置、微生物感受性分析装置、全自動血液培養装置				
病理検査室	310.51 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動染色装置、顕微鏡写真撮影装置、自動免疫染色装置、自動賦活装置、電子顕微鏡				
病理解剖室	42.11 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	超低温フリーザー、臓器撮影装置、電動昇降式解剖台、電動解剖ノココントロールモジュール				
研究室	825.12 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	超低温フリーザー、クリーンベンチ、クロマトチャンバー、スライド用細胞遠心機、リアルタイムPCR、サーマルサイクラー、共焦点顕微鏡、蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、シークエンサー、フローサイトメーター、液体窒素タンク				
講義室	536.87 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	6	室	収容定員	282	人
図書室	1666.1 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	2	室	蔵書数	65000	冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	86	%	逆紹介率	89.7	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		12763		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		22805		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		9108		人
	D: 初診の患者の数		25426		人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
相馬孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全担当副病院長 医療安全管理部 部長	○	千葉大学医学部附属病院において医療安全担当副病院長を務められ、医療安全に関する知識や実績が豊富であること。	無	1
滝沢牧子	群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 副部長		群馬大学医学部附属病院において医療の質・安全管理部の助教を務められ、医療安全全般に関する知識が豊富であること。	無	1
中島勸	埼玉医科大学総合医療センター 病院長補佐(安全担当) 医療安全対策室長		埼玉医科大学総合医療センターにおいて病院長補佐(安全担当)、医療安全対策室長を務められ、医療安全に関する知識や実績が豊富であること。	無	1
渡邊俊太郎	翼法律事務所 弁護士		関連法務から企業法務まで幅広い分野で活躍され、医療事故調査委員としての実績も十分なこと。	無	1
豊田郁子	患者・家族と医療をつなぐNPO法人 架け橋 理事長		長年にわたって医療者と患者・家族間の信頼関係の構築を目的とした活動を行っており、医療を受ける者の代表として適任であること。	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	病院HPに掲載(HOME>病院紹介>情報公開)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもの)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和4年度高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	ロボット支援胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除術)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和4年度高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	ロボット支援弁形成術(2弁)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和4年度高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(経皮的)	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和4年度高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和4年度高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	内視鏡的十二指腸悪性腫瘍粘膜下層剥離術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 「外保連試案2022」に記載されている技術度Eに該当する手技			
医療技術名	オープン型ステントグラフト挿入術(上行・弓部大動脈同時手術、自己弁温存)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 「外保連試案2022」に記載されている技術度Eに該当する手技			
医療技術名	大動脈瘤切除術(胸腹部大動脈)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 「外保連試案2022」に記載されている技術度Eに該当する手技			
医療技術名	頭蓋内腫瘍摘出術(松果体部腫瘍)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 「外保連試案2022」に記載されている技術度Eに該当する手技			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	9
扱い患者数の合計(人)	44

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	筋萎縮性側索硬化症	4	56	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	3
2	進行性核上性麻痺	9	57	下垂体前葉機能低下症	411
3	パーキンソン病	396	58	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	123
4	大脳皮質基底核変性症	1	59	甲状腺ホルモン不応症	4
5	シャルコー・マリー・トゥース病	3	60	アジソン病	45
6	重症筋無力症	122	61	サルコイドーシス	225
7	多発性硬化症/視神経脊髄炎	56	62	特発性間質性肺炎	84
8	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	17	63	肺動脈性肺高血圧症	59
9	多系統萎縮症	9	64	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	13
10	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	31	65	リンパ管筋腫症	9
11	ライソゾーム病	1	66	網膜色素変性症	62
12	もやもや病	89	67	バッド・キアリ症候群	1
13	進行性多巣性白質脳症	1	68	特発性門脈圧亢進症	3
14	特発性基底核石灰化症	1	69	原発性胆汁性胆管炎	120
15	全身性アミロイドーシス	11	70	原発性硬化性胆管炎	9
16	神経線維腫症	20	71	自己免疫性肝炎	6
17	天疱瘡	12	72	クローン病	86
18	膿疱性乾癬(汎発型)	20	73	潰瘍性大腸炎	593
19	スティーヴンス・ジョンソン症候群	20	74	好酸球性消化管疾患	2
20	中毒性表皮壊死症	4	75	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
21	高安動脈炎	42	76	チャージ症候群	1
22	巨細胞性動脈炎	24	77	クリオピリン関連周期熱症候群	1
23	結節性多発動脈炎	28	78	若年性特発性関節炎	53
24	顕微鏡的多発血管炎	47	79	TNF受容体関連周期性症候群	1
25	多発血管炎性肉芽腫症	53	80	非典型溶血性尿毒症症候群	1
26	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	52	81	先天性ミオパチー	3
27	悪性関節リウマチ	17	82	筋ジストロフィー	25
28	パージャー病	135	83	脊髄空洞症	11
29	原発性抗リン脂質抗体症候群	195	84	脊髄髄膜瘤	2
30	全身性エリテマトーデス	686	85	遺伝性ジストニア	1
31	皮膚筋炎/多発性筋炎	169	86	ピッカーstaff脳幹脳炎	1
32	全身性強皮症	322	87	アレキサンダー病	1
33	混合性結合組織病	63	88	ミオクロニー欠神てんかん	1
34	シェーグレン症候群	1044	89	レノックス・ガストー症候群	3
35	成人スチル病	40	90	レット症候群	1
36	再発性多発軟骨炎	4	91	スタージ・ウェーバー症候群	4
37	ベーチェット病	138	92	結節性硬化症	7
38	特発性拡張型心筋症	39	93	色素性乾皮症	5
39	肥大型心筋症	239	94	家族性良性慢性天疱瘡	2
40	拘束型心筋症	2	95	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	35
41	再生不良性貧血	64	96	マルファン症候群	21
42	自己免疫性溶血性貧血	24	97	エーラス・ダンロス症候群	6
43	発作性夜間ヘモグロビン尿症	6	98	ウィリアムズ症候群	6
44	特発性血小板減少性紫斑病	159	99	アペール症候群	1
45	血栓性血小板減少性紫斑病	6	100	歌舞伎症候群	1
46	原発性免疫不全症候群	6	101	多脾症候群	2
47	IgA腎症	215	102	無脾症候群	1
48	多発性嚢胞腎	114	103	プラダー・ウィリ症候群	2
49	黄色靭帯骨化症	11	104	ソトス症候群	4
50	後縦靭帯骨化症	54	105	ヌーナン症候群	6
51	広範脊柱管狭窄症	7	106	アンジェルマン症候群	2
52	特発性大腿骨頭壊死症	30	107	総動脈幹遺残症	1
53	下垂体性ADH分泌異常症	3	108	修正大血管転位症	29
54	下垂体性PRL分泌亢進症	1	109	完全大血管転位症	27
55	クッシング病	52	110	単心室症	27

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	左心低形成症候群	1	166		
112	三尖弁閉鎖症	17	167		
113	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	7	168		
114	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	169		
115	ファロー四徴症	96	170		
116	両大血管右室起始症	28	171		
117	エプスタイン病	10	172		
118	アルポート症候群	2	173		
119	急速進行性糸球体腎炎	89	174		
120	抗糸球体基底膜腎炎	1	175		
121	一次性ネフローゼ症候群	250	176		
122	紫斑病性腎炎	12	177		
123	間質性膀胱炎(ハンナ型)	25	178		
124	オスラー病	3	179		
125	閉塞性細気管支炎	8	180		
126	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4	181		
127	副甲状腺機能低下症	672	182		
128	偽性副甲状腺機能低下症	3	183		
129	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	184		
130	フェニルケトン尿症	1	185		
131	ポルフィリン症	1	186		
132	家族性地中海熱	13	187		
133	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	6	188		
134	慢性再発性多発性骨髄炎	3	189		
135	強直性脊椎炎	89	190		
136	軟骨無形成症	1	191		
137	リンパ管腫症/ゴーム病	2	192		
138	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3	193		
139	後天性赤芽球癆	2	194		
140	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1	195		
141	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	6	196		
142	クロンカイト・カナダ症候群	3	197		
143	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	12	198		
144	先天性横隔膜ヘルニア	2	199		
145	胆道閉鎖症	4	200		
146	遺伝性胼炎	2	201		
147	IgG4関連疾患	67	202		
148	黄斑ジストロフィー	3	203		
149	好酸球性副鼻腔炎	83	204		
150	進行性ミオクロームスτένかん	8	205		
151	先天性三尖弁狭窄症	1	206		
152	先天性僧帽弁狭窄症	2	207		
153	無虹彩症	3	208		
154	特発性多中心性キャッスルマン病	7	209		
155			210		
156			211		
157			212		
158			213		
159			214		
160			215		
161			216		
162			217		
163			218		
164			219		
165			220		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	154
合計患者数(人)	8,327

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	病棟薬剤業務実施加算2 (HCU,ICU,CCM,ICCU,届出)
歯科外来診療環境体制加算2	データ提出加算(2)
特定機能病院入院基本料	入退院支援加算【加算1】
救急医療管理加算	認知症ケア加算【加算1】
超急性期脳卒中加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
診療録管理体制加算1	精神疾患診療体制加算
医師事務作業補助体制加算1(15対1)	排尿自立支援加算
急性期看護補助体制加算(25対1)	地域医療体制確保加算
看護職員夜間配置加算(12対1)	地域歯科診療支援病院入院加算
療養環境加算	救命救急入院料3(HCU)
重症者等療養環境特別加算	救命救急入院料4(CCM)
無菌治療室管理加算1,2	特定集中治療室管理料1(ICU)
緩和ケア診療加算	特定集中治療室管理料3(ICCU)
精神科リエゾンチーム加算	ハイケアユニット入院医療管理料1(IMCU)
摂食障害入院医療管理加算	新生児特定集中治療室管理料1(NICU)
栄養サポートチーム加算	新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)
医療安全対策加算1	小児入院医療管理料1(6E)
感染対策向上加算1 (指導強化加算)	緩和ケア病棟入院料1(10W)
患者サポート体制充実加算	
報告書管理体制加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
呼吸ケアチーム加算	
後発医薬品使用体制加算3	
病棟薬剤業務実施加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	外来排尿自立指導料
外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準	ハイリスク妊産婦連携指導料1
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	ハイリスク妊産婦連携指導料2
糖尿病合併症管理料	肝炎インターフェロン治療計画料
がん性疼痛緩和指導管理料	こころの連携指導料(Ⅱ)
がん患者指導管理料イ、ロ、ハ、ニ	薬剤管理指導料
外来緩和ケア管理料	医療機器安全管理料1
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	医療機器安全管理料2
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	医療機器安全管理料(歯科)
糖尿病透析予防指導管理料	歯科治療時医療管理料
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	在宅血液透析指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料	在宅酸素療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
腎代替療法指導管理料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
一般不妊治療管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
生殖補助医療管理料1	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
二次性骨折予防継続管理料1	遺伝学的検査
二次性骨折予防継続管理料3	染色体検査の注2に規定する基準
地域連携小児夜間・休日診療料2	骨髄微小残存病変量測定
地域連携夜間・休日診療料	BRCA1/2遺伝子検査
院内トリアージ実施料	がんゲノムプロファイリング検査
外来放射線照射診療料	先天性代謝異常症検査
外来腫瘍化学療法診療料1	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
連携充実加算	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
ニコチン依存症管理料	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談体制充実加算	検体検査管理加算(Ⅰ)
がん治療連携計画策定料	検体検査管理加算(Ⅳ)

施設基準の種類	施設基準の種類
国際標準検査管理加算	頭部MRI撮影加算
遺伝カウンセリング加算	全身MRI撮影加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	外来化学療法加算1
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	無菌製剤処理料
胎児心エコー法	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
ヘッドアップティルト試験	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
単線維筋電図	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
神経学的検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
補聴器適合検査	がん患者リハビリテーション料
コンタクトレンズ検査料1	歯科口腔リハビリテーション料2
小児食物アレルギー負荷検査	療養生活継続支援加算
内服・点滴誘発試験	認知療法・認知行動療法1
前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
CT透視下気管支鏡検査加算	人工腎臓
経気管支凍結生検法	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
画像診断管理加算1	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
画像診断管理加算3	下肢抹消動脈疾患指導管理加算
遠隔画像診断	難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
CT撮影及びMRI撮影	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
冠動脈CT撮影加算	口腔粘膜処置
血流予備量比コンピューター断層撮影	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
外傷全身CT加算	有床義歯修理及び有床義歯内面的合法の歯科技工加算1及び2
心臓MRI撮影加算	皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
乳房MRI撮影加算	組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
小児鎮静下MRI撮影加算	緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
椎間板内酵素注入療法	経皮的僧帽弁クリップ術
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
角結膜悪性腫瘍切除手術	不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)

施設基準の種類	施設基準の種類
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	経皮的中隔心筋焼灼術
羊膜移植術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リトレスペースメーカー)
緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
網膜再建術	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)、乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	補助人工心臓
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的下肢動脈形成術
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	腹腔鏡下肝切除術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
胸腔鏡下弁形成術	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
胸腔鏡下弁置換術	内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胃瘻造設時嚙下機能評価加算
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	歯周組織再生誘導手術

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
生体腎移植術	レーザー機器加算
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	麻酔管理料(Ⅰ)
人工尿道括約筋植込・置換術	麻酔管理料(Ⅱ)
膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	周術期薬剤管理加算
精巣内精子採取術	放射線治療専任加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	外来放射線治療加算
腹腔鏡下仙骨腫固定術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	1回線量増加加算
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	体外照射呼吸性移動対策加算
体外式膜型人工肺管理料	定位放射線治療
手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)	病理診断管理加算2
乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)	悪性腫瘍病理組織標本加算
子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)	口腔病理診断管理加算2
輸血管理料Ⅰ	クラウン・ブリッジ維持管理料
輸血適正使用加算	
貯血式自己血輸血管理体制加算	
自己生体組織接着剤作成術	
自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	
同種クリオプレシピテート作製術	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
抗毒素製剤の高品質化、及び抗毒素製剤を用いた治療体制に資する研究	一二三 亭	救急部	7,800,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
日本人BRCA未発症変異保持者に対する乳癌リスク低減手法の開発研究	山内 英子	乳腺外科	1,560,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
患者層別化マーカー探索技術の開発／がん免疫モニタリングによる患者層別化を行う基盤技術の開発	山内 英子	乳腺外科	1,012,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
難治性呼吸器腫瘍等の全ゲノム配列データおよび臨床情報等の収集と解析に関する研究	山内 英子	乳腺外科	780,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
日・リトアニアにおける遺伝性乳癌の遺伝学的特徴の比較検討及び乳房MRIによる早期乳癌の検出能に関する研究	山内 英子	乳腺外科	325,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
静脈奇形に対するモノエタノールアミノレイン酸塩を用いた硬化療法の有効性及び安全性を評価する医師主導治験	野崎 太希	放射線科	409,500	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
「一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する標準化学療法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発	長谷川 大輔	小児科	130,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
ダウン症合併骨髄性白血病に対する標準的治療法の確立	長谷川 大輔	小児科	260,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
小児急性リンパ性白血病に対する標準的治療法の確立: フォローアップ課題	長谷川 大輔	小児科	1,300,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
心筋梗塞における時空間的シングルセル解析による病態解明と治療法開発 Spatio-temporal single-cell analysis of myocardial infarction for pathogenesis	水野 篤	循環器内科	650,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
急性期病棟の医療負担を軽減するせん妄対応支援プログラムに関する研究開発	水野 篤	循環器内科	1,300,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
小児および若年成人のEBウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症 (EBV-HLH) に対する新規標準治療の確立	小野 林太郎	小児科	130,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
ゲノム情報を活用した遺伝性腫瘍の先制的医療提供体制の整備に関する研究	山内 英子	乳腺外科	750,000	補	厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	山口 賢一	アレルギー膠原病科	300,000	補	厚生労働省
難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究	松藤 凡	小児外科	300,000	補	厚生労働省
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野崎 太希	放射線科	300,000	補	厚生労働省
小児がん拠点病院等及び成人診療科との連携による長期フォローアップ体制の構築のための研究	長谷川 大輔	小児科	200,000	補	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
AYA世代のがん患者に対するスマートフォンによる医療・支援モデル介入効果の検証	北野 敦子	腫瘍内科	200,000	補	厚生労働省
出生前検査を検討する妊婦への遠隔遺伝カウンセリング:テレジェネティクスの実践評価	深野 智華	遺伝診療センター	520,000	補	文部科学省
ZTEシーケンスを用いたCT情報を包含するAll in one MRIの開発	野崎 太希	放射線科	1,560,000	補	文部科学省
原発乳癌リンパ節転移陽性患者における術前化学療法後腋窩郭清省略の多施設共同研究	林 直輝	乳腺外科	390,000	補	文部科学省
緩和ケア診療加算による医療の質評価項目への影響	水野 篤	循環器内科	2,470,000	補	文部科学省
高分解能MRI、T2マップ、ZTEによる手関節構造解析と臨床応用	堀内 沙矢	放射線科	1,040,000	補	文部科学省
サイトカイン初期応答に基づく新規川崎病再燃予測システムの確立	小野 林太郎	小児科	1,430,000	補	文部科学省
加齢黄斑変性における脂質とマクロファージの解析	永井 紀博	眼科	1,300,000	補	文部科学省
ヤマカガシ咬傷における根治的治療薬であるヤマカガシ抗毒素に対する代替治療薬の検討	一二三 亨	救急部	910,000	補	文部科学省
自然言語処理とGANを利用したマルチモーダルコーパスによる説明可能AIの実現	松迫 正樹	放射線科	1,950,000	補	文部科学省
遺伝性乳癌卵巣癌の健康管理方法を選択するための意思決定支援ツールの効果検証	大川 恵	外来 I	1,300,000	補	文部科学省
予後予測可能なトリプルネガティブ乳癌診断法の開発	牛草 健	病理診断科	480,000	補	文部科学省
思春期若年成人世代の血液腫瘍患者への情報提供の在り方と支援に関する研究	小澤 美和	小児科	39,000	補	文部科学省
カテーテル関連血流感染症予防に対するオラネキシジングルコン酸塩の有効性の検討	一二三 亨	救急部	13,000	補	文部科学省
CKD患者のサルコペニアの病態機序解明およびHIF-PH阻害薬の効果に関する検討	中山 昌明	腎臓内科	130,000	補	文部科学省

計 32件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Ochi T, Tsunoda H, Yamauchi H, et al.	乳腺外科	Impact of childbirth history on dense breast in mammographic screening: a cross-sectional study.	BMC Womens Health. 2022 May; 22(1): 194. (オンライン)	Original Article
2	Ishikawa K, Mori N.	感染症科	Empyema necessitans due to Nocardia farcinica.	IDCases. 2022 Jun; 29: e01545. (オンライン)	Case Report
3	Fukui S, Tamaki H, Okada M, et al.	リウマチ膠原病センター	Transient Empty Portal Vein with Gastric Emphysema.	Clin Gastroenterol Hepatol. 2022 Apr; 20(4): A15-A16.	Others
4	Okamoto T, Nakamura K, Yabuta M, et al.	消化器内科	Retrograde endosonography-guided hepaticojejunostomy after failed rendezvous in a patient with Child's resection.	Endoscopy. 2022 Apr; 54(4): E131-E132. (オンライン)	Others
5	Yoshiyasu N, Kojima F, Takahara H, et al.	呼吸器外科	Efficacy of the Segment-Counting Method in Predicting Lung Function and Volume Following Stapler-Based Thoracoscopic Segmentectomy.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2022 Apr; 28(2): 121-128.	Original Article
6	Noya A, Oguro M, Horiuchi S, et al.	看護部	Professional learning using storytelling videos of childbirth experiences: A qualitative pilot study of student midwives' perceptions in Myanmar.	Jpn J Nurs Sci. 2022 Apr; 19(2): e12456. (オンライン)	Original Article
7	Yokoyama Y, Nakamura H, Kato N, et al.	循環器内科	A case report on the usefulness of combining online continuous wavelet transform analysis with a novel real-time phase mapping system during nonparoxysmal atrial fibrillation catheter ablation.	HeartRhythm Case Rep. 2022 Apr; 8(4): 250-253.	Case Report
8	Ozawa Y, Toda E, Homma K, et al.	眼科	Effects of Epigenetic Modification of PGC-1 α by a Chemical Chaperon on Mitochondria Biogenesis and Visual Function in Retinitis Pigmentosa.	Cells. 2022 Apr; 11(9): 1497. (オンライン)	Original Article
9	Soh M, Hifumi T, Otani N, et al.	救急部	Trends in endotracheal intubation for patients with COVID-19 by emergency physicians.	Glob Health Med. 2022 Apr; 4(2): 116-121.	Original Article
10	Okamoto T, Nakamura K.	消化器内科	Endosonography-guided gallbladder drainage in a patient with intestinal malrotation.	Endoscopy. 2022 May; 54(5): E180-E181. (オンライン)	Others

11	Matsuno H, Kang YM, Okada M, et al.	リウマチ膠原病センター	Comparison of the efficacy and safety of LBAL, a candidate adalimumab biosimilar, and adalimumab reference product in patients with active rheumatoid arthritis inadequately responding to methotrexate: a 52-week phase III randomised study.	Clin Exp Rheumatol. 2022 May; 40(5): 1025-1033.	Original Article
12	Watanabe K, Fukui S, Konishi K, et al.	腎センター	A case of systemic sarcoidosis with mesangial proliferative glomerulonephritis showing predominant deposition of IgG in the mesangial region.	CEN Case Rep. 2022 May; 11(2): 231-236.	Case Report
13	Watanabe K, Ito Y, Fujimaru T, et al.	腎センター	Role of the new bioimpedance monitoring device (Seca®) in assessing dry weight in hemodialysis patients.	Clin Exp Nephrol. 2022 May; 26(5): 460-465.	Original Article
14	Tomishima Y, Urayama KY, Kitamura A, et al.	呼吸器内科	Bronchoscopy for the diagnosis of nontuberculous mycobacterial pulmonary disease: Specificity and diagnostic yield in a retrospective cohort study.	Respir Investig. 2022 May; 60(3): 355-363.	Original Article
15	Ishikawa K, Matsuo T, Suzuki T, et al.	感染症科	Penicillin- and third-generation cephalosporin-resistant strains of Streptococcus pneumoniae meningitis: Case report and literature review.	J Infect Chemother. 2022 May; 28(5): 663-668.	Review
16	Sako Y, Akitani F, Shiota K, et al.	産婦人科	A case of two ovarian tissue transplantations that led to a biochemical pregnancy in Japan.	J Obstet Gynaecol Res. 2022 May; 48(5): 1279-1284.	Case Report
17	Takasu A, Ikeya T, Shiratori Y, et al.	消化器内科	Comparison of Conventional and New Endoscopic Band Ligation Devices for Colonic Diverticular Bleeding.	Clin Endosc. 2022 May; 55(3): 408-416.	Original Article
18	Kubono Y, Fujikawa H, Furuya Y, et al.	一般内科	Diabetic ketoacidosis from Candida urosepsis with fungus ball.	Acute Med Surg. 2022 May; 9(1): e764. (オンライン)	Case Report
19	Ichikawa N, Shiina Y, Kijima Y, et al.	臨床検査部	Severity classification of Fractional Area Change (FAC) in the left ventricle: A pilot study for evaluating systemic ventricular function by using FAC.	Journal of Adult Congenital Heart Disease. 2022 May; 11(2): 8-14.	Original Article
20	Shikano H, Uehara Y, Kuboki R, et al.	臨床検査部	Retrospective evaluation of the symptom-based work restriction strategy of healthcare providers in the first epidemic of COVID-19 at a tertiary care hospital in Tokyo, Japan.	Am J Infect Control. 2022 Jun; 50(6): 645-650.	Original Article
21	Nishiyama T, Yabuta M, Ogawa R, et al.	放射線科	n-Butyl Cyanoacrylate Embolization with Coil Protection to Prevent Reflux: A Modified Pressure Cooker Technique Using a Single Microcatheter.	J Vasc Interv Radiol. 2022 Jun; 33(6): 721-724.	Letter

22	Miyata K, Asano T, Saito A, et al.	循環器内科	Heart Team risk assessment with angiography-derived fractional flow reserve determining the optimal revascularization strategy in patients with multivessel disease: Trial design and rationale for the DECISION QFR randomized trial.	Clin Cardiol. 2022 Jun; 45(6): 605-613.	Original Article
23	Yoshimura S, Matsufuji H, Yada K, et al.	小児外科	Incidence of testicular microlithiasis after orchidopexy for cryptorchidism and its risk factors: A retrospective cohort study.	J Pediatr Urol. 2022 Jun; 18(3): 377.e1-377.e5. (オンライン)	Original Article
24	Ishikawa K, Uehara Y, Mori N, et al.	感染症科	In Vitro Activity and Clinical Efficacy of Faropenem against Third-Generation Cephalosporin-Resistant Escherichia coli and Klebsiella pneumoniae.	Antimicrob Agents Chemother. 2022 Jun; 66(6): e0012522. (オンライン)	Original Article
25	Nakai T, Fukui S, Ikeda Y, et al.	リウマチ膠原病センター	Glucocorticoid discontinuation in patients with SLE with prior severe organ involvement: a single-center retrospective analysis.	Lupus Sci Med. 2022 Jun; 9(1): e000682. (オンライン)	Original Article
26	Yamamoto K, Ikeya T, Kanomata N, et al.	消化器内科	Three Types of Subepithelial Lesion-Like Gastric Cancer Including a New Entity of Gastric Adenocarcinoma.	Case Rep Gastroenterol. 2022 Jun; 16(2): 368-374.	Case Report
27	Ito T, Fukui S, Suda M, et al.	リウマチ膠原病センター	Large-vessel Vasculitis of Extremities without Aortic Involvement.	Intern Med. 2022 Jul; 61(14): 2243.	Others
28	Ushigusa T, Yamamoto N, Hattori K, et al.	病理診断科	Focal xanthogranulomatous inflammation of the kidney cyst without pyelitis: a rare presentation mimicking kidney cancer.	Int Cancer Conf J. 2022 Jul; 11(3): 219-222.	Case Report
29	Ohyama T, Endo F, Shimbo M, et al.	泌尿器科	Japanese giant benign prostatic hyperplasia: Sibling cases.	IJU Case Rep. 2022 Jul; 5(4): 312-314.	Case Report
30	Shirasaki K, Hifumi T, Isokawa S, et al.	救急部	Postintensive Care Syndrome-Family Associated With COVID-19 Infection.	Crit Care Explor. 2022 Jul; 4(7): e0725. (オンライン)	Original Article
31	Ishikawa K, Nakamura T, Matsuo T, et al.	感染症科	Clinical Presentation of Legionella pneumophila Serogroup 1-Associated Pneumonia and Diffuse Alveolar Hemorrhage: A Case Report and Literature Review.	Am J Case Rep. 2022 Jul; 23: e936309. (オンライン)	Review
32	Kitamura A, Tomishima Y, Imai R, et al.	呼吸器内科	Findings of virtual bronchoscopic navigation can predict the diagnostic rate of primary lung cancer by bronchoscopy in patients with peripheral lung lesions.	BMC Pulm Med. 2022 Jul; 22(1): 270.	Original Article
33	Yoshimura S, Nozaki T, Matsufuji H, et al.	小児外科	Metachronous bilateral ovarian tumors: Immature teratoma and dysgerminoma.	Pediatr Int. 2022 Jul; 64(1): e15251. (オンライン)	Others

34	Ishikawa K, Nakamura T, Kawai F, et al.	感染症科	Stenotrophomonas maltophilia Infection Associated with COVID-19: A Case Series and Literature Review.	Am J Case Rep. 2022 Jul; 23: e936889. (オンライン)	Review
35	Aida A, Noto H.	内分泌・代謝科	Diagnosis and Treatment Course of Insulinoma Presenting as Hypoglycemia Unawareness Using a Factory-Calibrated Continuous Glucose Monitoring System.	Am J Case Rep. 2022 Jul; 23: e936723. (オンライン)	Case Report
36	Sato S, Niimi Y, Mochizuki T, et al.	脳神経外科	Umbilical vessel catheter retro-exchange technique (U-RET) for repeat use of the umbilical artery for neonatal vascular intervention: Technical note.	Interv Neuroradiol. 2022 Aug; 28(4): 386-390.	Original Article
37	Ryu B.	神経血管内治療科	In reply to the letter to the editor regarding "Angiographic classification of the inferior sagittal sinus based on the venous drainage patterns".	Jpn J Radiol. 2022 Aug; 40(8): 858.	Letter
38	Masaki M, Matsuo T, Kobayashi D, et al.	感染症科	SEASON GAP score: A predictor of Clostridioides difficile infection among patients with tube feeding.	J Infect Chemother. 2022 Aug; 28(8): 1131-1137.	Original Article
39	Ito T, Fukui S, Kanie T, et al.	リウマチ膠原病センター	Immunoglobulin G4-related coronary periarteritis: a systematic literature review with a case series.	Clin Rheumatol. 2022 Aug; 41(8): 2281-2295.	Review
40	Yamada D, Ohde S, Kajiura Y, et al.	放射線科	Relationship Between Breast Density, Breast Cancer Subtypes, and Prognosis.	Clin Breast Cancer. 2022 Aug; 22(6): 560-566.	Original Article
41	Momoeda M, Akira S, Harada T, et al.	女性総合診療部	Quality of Life of Japanese Dysmenorrhea/Heavy Menstrual Bleeding Patients Treated with Levonorgestrel Intrauterine Delivery System in a Real-World Setting.	Adv Ther. 2022 Aug; 39(8): 3616-3634.	Original Article
42	Harada N, Nagai N, Mushiga Y, et al.	眼科	Choriocapillaris Flow Imbalance in Fellow Eyes in Age-Related Macular Degeneration.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2022 Aug; 63(9): 13.	Original Article
43	Kodama H, Shiina Y, Kijima Y, et al.	循環器内科	Percutaneous aspiration embolectomy is beneficial for pulmonary thromboembolism in adult patients with Fontan circulation.	J Cardiol Cases. 2022 Aug; 26(2): 101-103.	Case Report
44	Yamasaki M, Yamamoto K, Abe K, et al.	心臓血管外科	Aortic dissection due to primary aldosteronism in a young adult with adrenal adenoma: A case report.	J Cardiol Cases. 2022 Aug; 26(2): 154-156.	Case Report

45	Imai R, Yamada D, Tomishima Y, et al.	呼吸器内科	Elevated plasma levels of Krebs von den Lungen-6 and geographic appearance on high-resolution computed tomography are associated with diffuse alveolar damage in autopsy cases of acute respiratory distress syndrome: a retrospective study.	BMC Pulm Med. 2022 Aug; 22(1): 308. (オンライン)	Original Article
46	Ryu B, Okada Y, Fujita N, et al.	脳神経外科	A Novel Magnetic Resonance Imaging-Compatible Titanium Alloy Wire-Reinforced Endotracheal Tube.	Materials (Basel). 2022 Aug; 15(16): 5632. (オンライン)	Original Article
47	Shima S, Tanaka Y, Sato S, et al.	脳神経外科	Spinal epidural arteriovenous fistula with improved sphincter impairment detected by intraoperative neurophysiological monitoring.	Surg Neurol Int. 2022 Aug; 13: 384. (オンライン)	Case Report
48	Ono R, Sakamoto K, Doi T, et al.	小児科	A retrospective survey of patients who discontinued participation in the JPLSG HLH-2004 clinical trial.	Int J Hematol. 2022 Sep; 116(3): 434-441.	Original Article
49	Nishizawa T, Jinta T, Koyamada R, et al.	一般内科	Adverse reactions of BNT162b2 vaccine booster against COVID-19 in Japan.	J Gen Fam Med. 2022 Sep; 23(5): 360-362.	Letter
50	Yamauchi R, Murayoshi N, Akiyama S, et al.	放射線腫瘍科	Residual image registration error by fiducial markers in accelerated partial breast irradiation using C-arm linac: a phantom study.	Phys Eng Sci Med. 2022 Sep; 45(3): 769-779.	Original Article
51	Yoshimura S, Matsufuji H, Migita M, et al.	小児外科	Postnatally Growing Umbilical Cord Pseudocyst.	Indian J Pediatr. 2022 Sep; 89(9): 918-919.	Others
52	Hirano K, Komatsu Y, Shimbo T, et al.	腎臓内科	Longitudinal relationship between long sleep duration and future kidney function decline.	Clin Kidney J. 2022 Sep; 15(9): 1763-1769.	Original Article
53	Ohyama T, Shimbo M, Komatsu K, et al.	泌尿器科	Peritoneal invasion of prostate cancer directly confirmed during robot-assisted radical prostatectomy.	IJU Case Rep. 2022 Sep; 5(5): 415-417.	Case Report
54	Fukui S, Nakai T, Kawaai S, et al.	リウマチ膠原病センター	Advantages of an alternate-day glucocorticoid treatment strategy for the treatment of IgG4-related disease: A preliminary retrospective cohort study.	Medicine (Baltimore). 2022 Sep; 101(39): e30932. (オンライン)	Original Article
55	Nakamura T, Imai R, Nishimura N, et al.	呼吸器内科	A Case of Non-small-Cell Lung Cancer with Anaphylaxis after 41 Courses of Pembrolizumab along with Adrenal Insufficiency as an Immune-Related Adverse Event.	Case Rep Oncol. 2022 Sep; 15(3): 804-808.	Case Report
56	Takasu A, Ikeya T, Shiratori Y, et al.	消化器内科	Use of the NOBLADS Score to Predict Endoscopic Treatment in Patients with Colonic Diverticular Bleeding by Age Stratification.	Intern Med. 2022 Oct; 61(20): 3009-3016.	Original Article

57	Yamasaki M, Abe K, Nakamura R, et al.	心臓血管外科	BioGlue cerebral embolism following acute type A aortic dissection repair.	J Cardiol Cases. 2022 Oct; 26(4): 289–292.	Case Report
58	Aichi R, Nagai N, Ohkoshi K, et al.	眼科	Impact of Treating Age-Related Macular Degeneration before Visual Function Is Impaired.	J Clin Med. 2022 Oct; 11(19): 5726. (オンライン)	Original Article
59	Mushiga Y, Nagai N, Ozawa Y, et al.	眼科	Retinal circulation time/arm-to-retina time ratio in the fluorescein angiography to evaluate retina-specific hemodynamics.	Sci Rep. 2022 Oct; 12(1): 17457.	Original Article
60	Nakatani R, Ashiarai M, Yoshihara H, et al.	小児科	Multidisciplinary management of disseminated Exophiala dermatitidis mycosis in an infant with mixed phenotype acute leukemia: a case report.	BMC Infect Dis. 2022 Oct; 22(1): 797.	Case Report
61	Yoshimoto-Suzuki Y, Hasegawa D, Hosoya Y, et al.	小児科	Significance of active screening for detection of health problems in childhood cancer survivors.	Front Pediatr. 2022 Oct; 10: 947646. (オンライン)	Original Article
62	Suzuki T, Matsuo T, Kijima Y, et al.	循環器内科	Acute heart failure associated with toxic shock syndrome due to methicillin-susceptible Staphylococcus aureus during the postpartum period: case report and systematic literature review.	BMC Cardiovasc Disord. 2022 Oct; 22(1): 452. (オンライン)	Review
63	Yamamoto K, Ikeya T, Fukuda K, et al.	消化器内科	Comparison in the development of colorectal cancer after screening colonoscopy between elderly and younger population.	Eur J Cancer Prev. 2022 Nov; 31(6): 505–512.	Original Article
64	Akiyama S, Nozaki T, Tasaki A, et al.	放射線科	Longitudinal MR quantification of the fat fraction within the supraspinatus and infraspinatus muscles in patients with shoulder pain.	Acad Radiol. 2022 Nov; 29(11): 1700–1708.	Original Article
65	Hifumi T, Inoue A, Otani T, et al.	救急部	Details of Targeted Temperature Management Methods for Patients Who Had Out-of-Hospital Cardiac Arrest Receiving Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation: A Questionnaire Survey.	Ther Hypothermia Temp Manag. 2022 Nov; 12(4): 215–222.	Original Article
66	Shiratori Y, Yamamoto K, Okuyama S, et al.	消化器内科	Evaluation and management of esophageal varices by through-the-scope endoscopic Doppler probe method.	Dig Endosc. 2022 Nov; 34(7): 1370–1379.	Original Article
67	Shiratori Y, Ikeya T, Yamamoto K, et al.	消化器内科	Doppler probe method to reduce delayed bleeding after endoscopic submucosal dissection in the stomach: a propensity-score matched study (with video).	Surg Endosc. 2022 Nov; 36(11): 8663–8671.	Original Article

68	Namba T, Matsuda N, Rahman M, et al.	乳腺外科	Association between mammographic breast composition and breast cancer risk among Japanese women: a retrospective cohort study.	Breast Cancer. 2022 Nov; 29(6): 978-984.	Original Article
69	Shimbo M, Endo F, Matsubara T, et al.	泌尿器科	Long-term results after robot-assisted radical prostatectomy of a simplified inguinal hernia prevention technique without artificial substance use.	Int J Urol. 2022 Nov; 29(11): 1315-1321.	Original Article
70	Nakamura T, Takeyasu Y, Yoshida T, et al.	呼吸器内科	End-of-life impact of concurrent diabetes mellitus and adrenal insufficiency as immune-related adverse events in an advanced non-small cell lung cancer patient.	Thorac Cancer. 2022 Nov; 13(21): 3073-3075.	Case Report
71	Morita C, Kitamura A, Kinoshita K, et al.	呼吸器内科	A case of a thoracic mass negative on thoracentesis diagnosed by cryobiopsy from the visceral pleura.	Respirol Case Rep. 2022 Nov; 10(11): e01050. (オンライン)	Case Report
72	Fukagawa E, Yuasa T, Inamura K, et al.	泌尿器科	De novo large-cell neuroendocrine carcinoma of the prostate: A case report and literature review.	IJU Case Rep. 2022 Nov; 5(6): 505-510.	Review
73	Nishizawa T, Ishikawa K, Takamizawa M, et al.	一般内科	Successful treatment of refractory crusted scabies.	BMJ Case Rep. 2023 Nov; 15(11): e251842. (オンライン)	Case Report
74	Matsuo T, Yoshioka T, Okubo R, et al.	感染症科	Burnout and its associated factors among healthcare workers and the general working population in Japan during the COVID-19 pandemic: a nationwide cross-sectional internet-based study.	BMJ Open. 2024 Nov; 12(11): e064716. (オンライン)	Original Article
75	Fukui S, Kidoguchi G, Okada M, et al.	リウマチ膠原病センター	Aortitis in a patient on chemotherapy.	CMAJ. 2022 Nov; 194(46): E1574.	Review
76	Nishizawa T, Ikenaka Y, Ichikawa G, et al.	一般内科	Thiamethoxam intoxication due to occupational inhalational exposure.	BMJ Case Rep. 2022 Nov; 15(11): e251110. (オンライン)	Case Report
77	Nishizawa T, Takizawa M, Arioka H, et al.	一般内科	Epipericardial Fat Necrosis.	Journal of Hospital General Medicine. 2022 Nov; 4(6): 276-277.	Others
78	Moriya S, Nishizawa S, Tsuchihashi Y, et al.	臨床工学科	Impact on change in serum beta 2 microglobulin by combination therapy of peritoneal dialysis and hemodialysis: a 12-month preliminary observational study.	Renal Replacement Therapy. 2022 Nov; 8: 55. (オンライン)	Original Article
79	Fukui S, Tamaki H, Masato O, et al.	リウマチ膠原病センター	Emphysematous cystitis in a haemodialysis patient.	Postgrad Med J. 2022 Dec; 98(1166): e34. (オンライン)	Original Article

80	Nakai T, Fukui S, Kidoguchi G, et al.	リウマチ膠原病センター	Effect and safety profile of belimumab and tacrolimus combination therapy in thirty-three patients with systemic lupus erythematosus.	Clin Rheumatol. 2022 Dec; 41(12): 3735-3745.	Original Article
81	Isa K, Matsuo T, Onishi K, et al.	一般内科	Predicting bacteremia caused by Streptococcus anginosus group: A new scoring method.	J Infect Chemother. 2022 Dec; 28(12): 1628-1631.	Original Article
82	Sako Y, Hirata T, Momoeda M, et al.	産婦人科	Hysteroscopy-guided laparoscopic resection of a cesarean scar defect in 5 steps: the usefulness of nonperfusion hysteroscopy.	Fertil Steril. 2022 Dec; 118(6): 1196-1198.	Others
83	Omori T, Aoyama T, Miyamoto A, et al.	薬剤部	Pharmacokinetic/Pharmacodynamic Modeling and Simulation of the Analgesic Effects of Pentazocine Using Perioperative Real-World Data.	Biol Pharm Bull. 2022 Dec; 45(12): 1754-1763.	Original Article
84	Saito Y, Nishizawa T, Arioka H, et al.	一般内科	Pylephlebitis after sigmoid colonic polypectomy.	BMJ Case Rep. 2022 Dec; 15(12): e253095. (オンライン)	Case Report
85	Fukui S, Tamaki H, Masato O, et al.	リウマチ膠原病センター	Emphysematous cystitis in a haemodialysis patient.	Postgrad Med J. 2022 Dec; 98(1166): e34. (オンライン)	Original Article
86	Yoshida S, Miyasaka KW, Fujita N, et al.	麻酔科(周麻酔看護)	Mallampati Classification and Frequency of Respiratory Depression After Cesarean Section With 0.15 MG Spinal Morphine.	Tokyo Women's Medical University Journal. 2022 Dec; 6: 21-29.	Original Article
87	Yamamoto K, Ikeya T, Shiratori Y, et al.	消化器内科	Utility of Under-Gel Endoscopic Mucosal Resection with Partial Submucosal Injection and Under-Gel Precutting Endoscopic Mucosal Resection for Difficult Colorectal Polyp Cases.	Dig Dis. 2023 Jan; 41(1): 164-172.	Case Report
88	Tomishima Y, Suda M, Tamaki H, et al.	呼吸器内科	Antimicrobial therapy for nontuberculous mycobacterial pulmonary disease improved hearing loss and normalized myeloperoxidase-anti-neutrophil cytoplasmic antibody level: A case report.	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 Jan; 7(1): 283-287.	Case Report
89	Shiratori Y, Ishii N, Aoki T, et al.	消化器内科	Timing of colonoscopy in acute lower GI bleeding: a multicenter retrospective cohort study.	Gastrointest Endosc. 2023 Jan; 97(1): 89-99.e10.	Original Article
90	Nakai T, Ikeda Y, Yamaguchi K, et al.	リウマチ膠原病センター	A case report of two systemic lupus erythematosus pregnancies with early placental exposure to belimumab: Case report with review.	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 Jan; 7(1): 82-86.	Review
91	Hiranuma M, Kobayashi D, Yokota K, et al.	一般内科	Chi-square automatic interaction detector decision tree analysis model: Predicting cefmetazole response in intra-abdominal infection.	J Infect Chemother. 2023 Jan; 29(1): 7-14.	Original Article

92	Ogawa M, Sato M, Yamakami A, et al.	臨床検査部	Diagnostic test property of transcription-reverse transcription concerted reaction reagent TRCReady® SARS-CoV-2 i using nasopharyngeal swab samples.	J Infect Chemother. 2023 Jan; 29(1): 115-117.	Others
93	Suga K, Tsunoda H, Fukui S, et al.	放射線科	Why is the depth/width ratio of a typical fibroadenoma small in breast ultrasonography?	J Med Ultrason (2001). 2023 Jan; 50(1): 97-101.	Original Article
94	Sekiguchi K, Sumi M, Saito A, et al.	放射線腫瘍科	The effectiveness of moisturizer on acute radiation-induced dermatitis in breast cancer patients: a systematic review and meta-analysis.	Breast Cancer. 2023 Jan; 30(1): 2-12.	Review
95	Hifumi T, Inoue A, Otani N, et al.	救急部	The difference in the association between included ECPR patients and neurological outcomes.	Crit Care. 2023 Jan; 27(1): 39. (オンライン)	Others
96	Takahashi Y, Morisawa T, Okamoto H, et al.	リハビリテーション科	Relationship Between Skeletal Muscle Quality and Hospital-Acquired Disability in Patients With Sepsis Admitted to the ICU: A Pilot Study.	Crit Care Explor. 2023 Jan; 5(1): e0835. (オンライン)	Original Article
97	Nakamura Y, Fujita N, Yamaguchi A, et al.	心臓血管外科	Risk Factors for Vocal Cord Paralysis and Hoarseness Following Endotracheal Intubation.	Ann Surg Perioper Care. 2023 Jan; 8(1): 1056.	Others
98	Kobayashi D, Yokota K, Yamagata-Uyama S, et al.	一般内科	Follow-up evaluation for norovirus asymptomatic infection among healthy adults: a prospective matched cohort study.	Infect Dis (Lond). 2023 Feb; 55(2): 108-115.	Original Article
99	Shimbo M, Ohyama T, Endo F, et al.	泌尿器科	Simplified approach to the medial internal iliac region using a uretero-hypogastric nerve fascia development procedure for extended pelvic lymph node dissection during robot-assisted radical prostatectomy for high-risk prostate cancer.	Int J Urol. 2023 Feb; 30(2): 190-195.	Original Article
100	Ono R, Tsumura M, Shima S, et al.	小児科	Novel STAT1 Variants in Japanese Patients with Isolated Mendelian Susceptibility to Mycobacterial Diseases.	J Clin Immunol. 2023 Feb; 43(2): 466-478.	Original Article
101	Nagao T, Fukui S, Ohde S, et al.	女性総合診療部	The perinatal outcomes by gestational weight gain range at 30 weeks of gestation among pre-pregnancy underweight women.	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Feb; 49(2): 635-640.	Original Article
102	Mizuno N, Okamoto H, Minemura T, et al.	放射線腫瘍科	Establishing quality indicators to comprehensively assess quality assurance and patient safety in radiotherapy and their relationship with an institution's background.	Radiother Oncol. 2023 Feb; 179: 109452. (オンライン)	Original Article

103	Shirasaki K, Hifumi T, Goto M, et al.	救急部	Clinical characteristics and outcomes after extracorporeal cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients with an initial asystole rhythm.	Resuscitation. 2023 Feb; 183: 109694. (オンライン)	Original Article
104	Kitamura H, Nishizawa T, Deshpande GA, et al.	一般内科	Reversible Cerebral Vasoconstriction Syndrome Associated with Vasospasm of the Colic Arteries and Possibly Coronary Vasospasm.	Am J Case Rep. 2023 Feb; 24: e938322. (オンライン)	Case Report
105	Seki A, Tsunoda H, Takei J, et al.	乳腺外科	Clinicopathological and imaging features of ductal carcinoma in situ in BRCA1/2 mutation carriers.	Breast Dis. 2023 Feb; 42(1): 5-15.	Original Article
106	Nakamura T, Yabuta M, Kitamura A, et al.	呼吸器内科	Giant complex pulmonary arteriovenous malformation treated with coil embolisation under general anaesthesia with a history of contrast media allergy.	BMJ Case Rep. 2023 Feb; 16(2): e254148. (オンライン)	Others
107	Nagai N, Mushiga Y, Ozawa Y, et al.	眼科	Retinal Pigment Epithelial Abnormality and Choroidal Large Vascular Flow Imbalance Are Associated with Choriocapillaris Flow Deficits in Age-Related Macular Degeneration in Fellow Eyes.	J Clin Med. 2023 Feb; 12(4): 1360. (オンライン)	Original Article
108	Shiina Y, Inai K, Sakai R, et al.	心血管センター	Hepatocellular carcinoma and focal nodular hyperplasia in patients with Fontan-associated liver disease: characterisation using dynamic gadolinium ethoxybenzyl diethylenetriamine pentaacetic acid-enhanced MRI.	Clin Radiol. 2023 Mar; 78(3): e197-e203. (オンライン)	Original Article
109	Kitada A, Nakai T, Fukui S, et al.	アレルギー膠原病科	Safety of tacrolimus use during pregnancy and related pregnancy outcomes in patients with systemic lupus erythematosus: A retrospective single-center analysis in Japan.	Lupus. 2023 Mar; 32(3): 352-362.	Original Article
110	Ishikawa K, Masaki T, Kawai F, et al.	感染症科	Systematic Review of the Short-Term versus Long-Term Duration of Antibiotic Management for Neutropenic Fever in Patients with Cancer.	Cancers (Basel). 2023 Mar; 15(5): 1611. (オンライン)	Review
111	Ono M, Mizuno A, Kohsaka S, et al.	循環器内科	Geriatric Nutritional Risk Index at Hospital Admission or Discharge in Patients with Acute Decompensated Heart Failure.	J Clin Med. 2023 Mar; 12(5): 1891. (オンライン)	Original Article
112	Fukui S, Okada M, Rahman M, et al.	リウマチ膠原病センター	Differences in the Association Between Alcoholic Beverage Type and Serum Urate Levels Using Standardized Ethanol Content.	JAMA Netw Open. 2023 Mar; 6(3): e233398. (オンライン)	Original Article

113	Amaha K, Yamaguchi S, Teramoto A, et al.	整形外科	Clinical outcomes of surgical treatment for end-stage ankle osteoarthritis in patients aged \geq 75 years: a multicenter, retrospective study	J Orthop Surg Res. 2023 Mar; 18(1): 244. (オンライン)	Original Article
114	Shiratori Y, Hutfless S, Rateb G, et al.	消化器内科	The burden of gastrointestinal diseases in Japan, 1990-2019, and projections for 2035.	JGH Open. 2023 Mar; 7(3): 221-227.	Original Article
115	Takano M, Inoue M, Ikeda Y, et al.	薬剤部	SEM Observation of the Filter after Administration of Blinatumomab: A Possibility of Leakage during Home Administration Using a Portable Infusion Pump.	Int J Mol Sci. 2023 Mar; 24(6): 5729. (オンライン)	Others

計 115件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 「研究倫理審査取扱規程」、「研究倫理審査委員会標準業務手順書」：委員会設置の要件、責務、委員会の構成、会議の成立要件、運営、記録の保存、審査区分フォロー 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年24回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 「学校法人聖路加国際大学利益相反マネジメント規程」 ：マネジメントの目的、定義、対象、判断基準、手続き 等 「学校法人聖路加国際大学における研究に係る利益相反管理規程」 ：研究における利益相反管理の目的、定義、報告方法、委員会の設置・構成 等 「臨床研究法における利益相反管理に関する標準業務手順書」 ：臨床研究法に基づく利益相反管理の目的、適用範囲、管理体制 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2回
・ 研修の主な内容 1. 初級者（ベーシックコース）：e-learning（年1回）、2022年度受講者：393名。 2. 初級者以外（アドバンストコース）：e-learning（年1回）、2022年度受講者：507名。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

新専門医制度に基づく研修プログラム
専攻する診療科の研修をはじめ、病棟診療担当業務・救急外来診療業務など、臨床医として幅広い経験を積み、他科との有機的な連携をめざしたチーム医療を実践できる研修を実施しています。また、研究センター・教育センター等の組織を有し、シミュレーション教育や臨床研究をサポートする研修環境を整備しています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	91 人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
阿部 世紀	麻酔科	部長	28年	
鹿股 直樹	病理診断科	部長	32年	
平田 哲也	産婦人科	部長	24年	
北村 信人	整形外科	部長	30年	
板東 徹	外科	部長	35年	
服部 一紀	泌尿器科	部長 (副院長)	37年	
松井 瑞子	形成外科	部長	35年	
小澤 美和	小児科	部長	35年	
栗原 泰之	放射線科	部長	39年	
大谷 典生	救急科	部長	25年	
新井 達	皮膚科	部長	32年	
小澤 洋子	眼科	部長	31年	
長浜 正彦	内科	医長	24年	
有岡 宏子	総合診療	部長	37年	
池田 真人	精神科	部長	40年	
岡田 芳和	脳神経外科	部長	49年	
中条 恭子	耳鼻咽喉科	部長	34年	
森 信好	感染症科	医長	18年	
小澤 靖弘	歯科口腔外科	部長	36年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 人工呼吸器ワークショップ（ベーシック） （人工呼吸器の基本モードと設定、モニタリングと評価、グラフ分析）・研修の期間・実施回数 第1回2022年11月27日（日） 第2回2023年2月25日（土）・研修の参加人数 第1回看護師10名、理学療法士3名 第2回看護師17名、理学療法士2名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	院長 石松 伸一	
管理担当者氏名	病院事務部長 渡辺 明良	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	紙媒体
		各科診療日誌	電子カルテ	電子媒体
		処方せん		紙媒体（中央管理）
		手術記録		※診療記録の院外への持ち出しは禁止している。業務上必要な理由により院外へ持ち出す場合は、目的等を届け出て、運用責任者の承認を得る。
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書				
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課人事システム	電子媒体
		高度の医療の提供の実績	医事課	電子媒体
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	院内ネットワーク 研究企画管理部	電子媒体
		高度の医療の研修の実績	教育センター、人事課	電子媒体
		閲覧実績	医事課	電子媒体
		紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内	電子媒体
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	電子カルテ内	電子媒体
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	教職員ポータル>>QIセンター医療安全管理室	電子媒体
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	Teams>>医療安全管理委員会	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	インシデント報告システム ファントルくん、教職員ポータル>>QIセンター医療安全管理室	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	教職員ポータル >>方針・手順	電子媒体
		院内感染対策のための委員会の開催状況	Teams>>感染予防委員会	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	Teams>>感染予防委員会	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	人事課人事システム	発令
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	電子媒体
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	教職員ポータル>>薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	教職員ポータル>>薬剤部>>ニュースレター	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	人事課人事システム	発令
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	受講する各部署	紙媒体
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室部門システム、各部署点検記録	電子媒体および紙媒体		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	使用する各部署	電子媒体		

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院QIセンター運営規程」	電子媒体
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	人事課人事システム	発令
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	Teams>>薬剤マネジメント委員会	電子媒体
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院インフォームド・コンセント委員会運営規程」	電子媒体
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院医療記録の運用管理規程」	電子媒体
		医療安全管理部門の設置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院QIセンター運営規程」	電子媒体
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院高難度未承認医療評価室運営規程」	電子媒体
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院臨床倫理委員会運営規程」「薬剤マネジメント委員会運営規程」	電子媒体
		監査委員会の設置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院医療安全監査委員会規程」	電子媒体
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	インシデント報告システムファントルくん	電子媒体
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	院内ネットワーク>>QIセンター医療安全管理室	電子媒体
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	教職員ポータル QIセンター>>医療安全管理室>>「聖路加国際病院安全管理指針」	電子媒体
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「医療安全管理に関する内部通報規程」	電子媒体
職員研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	電子媒体		

	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	電子媒体
	管理者が有する権限に関する状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集	電子媒体
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集	電子媒体
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集	電子媒体

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 渡辺 明良
閲覧担当者氏名	医事課マネージャー 岡田太郎、久保田純子、大野美加子
閲覧の求めに応じる場所	・東京都中央区明石町9番1号 聖路加国際病院内
閲覧の手続の概要 「聖路加国際病院諸記録閲覧規程」に基づいて、閲覧申請書により、閲覧責任者に申請を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	1	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 安全管理のための組織体制 2. 医療安全管理委員会 3. 安全管理のための職員研修 4. 院内報告制度 5. 事故発生時の対応 6. インフォームド・コンセント 7. 患者からの苦情・相談 8. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供 9. 外部監査 10. その他医療安全の推進 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（☑・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： 1. 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析 2. 1の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知 3. 2の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し 4. 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく職員への必要な指導 5. 医療安全管理部門による医療法施行規則第9条の20の2第9項イに定める事項の報告の実施の状況の確認及び確認結果の院長への報告 6. 5に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：いずれもe-learningで開講 1. 院内報告制度、匿名で疑義や疑念を表明する仕組み、予期せぬ死亡と医療事故調査制度、スタットコール、ダブルチェック、IPSG（国際患者安全目標）、 2. チームSTEPPS 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（☑・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 「医療安全に係る院内報告制度と医療事故等の対応に関する方針・手順」に則り、職員はインシデント発生時はインシデント報告システムを介して医療安全 	

管理室に報告する。患者影響レベル3b以上の場合は、インシデント報告システムでの報告に加え、医療安全管理者またはQIセンター医療安全管理室に電話等で連絡する。

インシデントの詳細は、医療安全管理者またはインシデント事例小委員会の委員や医療安全推進者によってヒアリングされる。医療安全管理室は、ヒアリングした内容について必要に応じて医療安全推進者と検討したうえで、インシデント事例小委員会等で報告し、再発防止策や改善策についての検討と事故等事案と警鐘事例への該当についての確認を行う。

医療安全管理室は、インシデント事例小委員会等で検討された再発防止策や改善策を、報告者、関係者、その所属長及び医療安全推進者にフィードバックをする。医薬品、医療機器、放射線に関する事象・事例は各安全管理責任者と共有し、必要に応じて対応を依頼する。医療安全管理室は再発防止策や改善策が追記された報告書を保管する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☐有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染予防に関する基本的考え方 2. 医療関連感染予防に関する組織とその役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染予防委員会 2) 感染予防チーム 3) 抗菌薬適正使用支援チーム 4) QI センター感染管理室 3. 医療関連感染の発生に関する報告と対応 4. 感染予防に関する方針と手順（閲覧に関する内容を含む） 5. 感染予防に関する研修 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染予防に関わる方針と手順 2. 医療関連感染発生状況のモニタリング、原因分析、改善および周知 3. 医療関連感染対策の実施状況のモニタリングと改善 4. 分離菌の薬剤感受性状況の確認と抗菌薬適正使用支援 5. 職業感染リスクのモニタリングと対策 6. 適切な洗浄・消毒・滅菌に関する事項 7. 適切な医療環境管理に関する事項 8. 医療関連感染予防に関する研修 9. 感染予防に関する自治体および医療機関との連携 10. 新興感染症への緊急対応 11. 立ち入り検査・第三者病院機能評価に関する事項 12. その他の医療関連感染に係る事項 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準予防策、感染経路別予防策、抗菌薬適正使用 2. 医療器具を介した感染予防、職業感染予防、その他の感染対策 	
<p>④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況</p> <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （☑有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 新型コロナウイルス感染症の医療関連感染予防のための取り組み - 薬剤耐性菌および<i>C. difficile</i>陽性患者発生状況の把握およびフィードバック - 薬剤耐性菌および<i>C. difficile</i>陽性患者に対する接触予防策およびその他の伝播防止の取 	

り組み（保菌のハイリスク群を対象としたスクリーニング検査や退院清掃後のUVC照射等）

- 抗菌薬の使用状況の把握とコンサルテーション
- 手指衛生実施率の把握、評価、フィードバック、実施率向上のための取り組み
- 医療器具関連感染・手術部位感染発生率の把握、フィードバックおよび予防のための取り組み
- 結核感染予防のための早期診断および隔離のための取り組み
- 針刺し・切創・粘膜創傷汚染発生状況の評価と予防のための取り組み
- 清掃の品質評価と改善のための取り組み
- 建築・改築時の感染リスク評価と予防のための取り組み
- 感染性廃棄物の安全な管理に関する取り組み
- ワクチンで予防可能な感染症に対する免疫獲得のための取り組み など

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 16 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 全職員対象（e-learning） <ul style="list-style-type: none"> - ハイアラート薬の定義 - ハイアラート薬のストック薬の保管場所、保管方法 - 高濃度電解質の保管部署の制限 - 高濃度電解質の調剤・処方・投与に関する制限 ・ 新入職員・中途入職員対象（講義） <ul style="list-style-type: none"> - 医師 処方について（廃棄薬・麻薬管理を含む）、処方・薬剤情報検索について - 看護師 ハイアラート薬の正しい取り扱いと管理、ストック薬を適切に使用するための注意点 ・ 看護師（講義） <ul style="list-style-type: none"> - 看護管理研修プログラム 静脈注射研修 - 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （ 有・無 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 医薬品安全管理責任者による定期巡回 <ul style="list-style-type: none"> - 薬剤部門や病棟・外来部門において、医薬品安全管理責任者による巡回を定期的を実施。 - 医薬品の取り扱い・保管管理状況が手順書に沿って適正に行われているかを確認する。 - 不履行や改善必要事項などに対し、当該部署の医薬品管理部署責任者にフィードバックをし、改善する。 ② 病棟薬剤師による病棟ストック薬保管管理状況の確認 1か月に1回、病棟・診療科担当薬剤師が22項目について実施状況を確認する。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 令和4年度は未承認薬等が2薬剤、審議された。 ラニビズマブBS硝子体内注射用キットの適応外使用が臨床倫理委員会の倫理的側面における審議承認後に、薬剤マネジメント委員会にて審議された。審議の結果、使用する疾患毎に臨床倫理委員会に確認を行うこととし、採用品で先発品のルセンテイスでの使用が承認された。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - 2021年度末にオンコロジーセンター薬剤室に導入した調製支援システムが2022年度に正式に稼働した - インスリンガイドにインスリン持続静脈注射とGI療法に関する標準投与方法の項目を追記し、院内に周知した - PMDA等から配信される医薬品の安全性に関する情報を直ちに入手し、速やかに伝達できる体制を取っている - 発生した医薬品の副作用を医薬品情報室で一元管理している。薬剤マネジメント委員会で報告後、病院内の職員にも周知している 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 79 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>対象者 新規医療機器導入時使用予定者に対し、また初めて医療機器を使用する職員に対して。特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器6分野に対して。</p> <p>研修内容 医療機器の有効性・安全性に関する事項、医療機器の使用方法に関する事項、医療機器の保守点検に関する事項、医療機器の不具合等が発生した場合の対応(施設内での報告、行政機関への報告等)に関する事項、医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項</p> <p>研修内容の記録と報告 研修の項目、日時、参加者、研修の対象とした医療機器の名称、研修を実施した場所の情報を研修報告書に記録する。研修報告書を用いた報告は、医療機器安全管理推進担当者医療機器安全管理責任者の順で行う。</p> <p>未受講者は、講習会を開催した、または講習会を受講した医療従事者が指導することで、医療機器を使用可能とする。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>年度初めの医療機器安全管理委員会にて、医療機器の年間計画表を医療機器安全管理責任者が承認する。</p> <p>厚労省が定めるクラス分類で定期点検、日常点検（故障時対応）を実施する。 定期点検（クラスⅢ・Ⅳ、一部Ⅱ） 添付文書や取扱説明書に沿って実施。必要時には業者と相談し点検内容を検討。医療機器ごとに点検報告書を作成し保管する。点検年月、次回点検予定月が記載されている定期点検済シールを医療機器に貼り付け、当該医療機器の点検状況が使用者に分かるようにする。 日常点検・故障時対応（クラスⅠ・Ⅱ） 院内に複数代替機があり、不具合が発生した場合にすぐに交換ができる機器とする。また、使用前・使用后点検など日常点検を実施し基本性能や安全性の確認を行う。</p> <p>年度末の医療機器安全管理委員会にて、医療機器の点検状況を医療機器安全管理責任者が確認する。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 「医療機器安全管理に関する方針・手順」において、医療機器に係る安全性情報等の収集、添付文書等の整理および管理、医療機器の不具合が発生した場合の対応、医療機器のリコールが発生した場合の対応を定めている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） 責任者：統括副院長、QIセンター長（医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 別表1「医療安全管理体制」を参照</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 院内組織（薬剤マネジメント委員会）により、厚生労働省、東京都およびPMDAから通知される医薬品に関する情報を収集・集約し、必要に応じてその使用に関わる部門、医師、薬剤師、看護師等に直接、あるいはメール等で周知し、安全確保に最善を尽くしている。 また、患者における健康被害が最小限となるよう、回収などの対応を院内および地域保健薬局とも連携協働し、迅速に行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 院内組織（臨床倫理委員会・薬剤マネジメント委員会）にて院内使用状況の把握及び安全使用の観点より、未承認薬使用の申請の手続きならびに審査を実施している。 また、当該医薬品の安全管理と使用状況の把握のため、薬剤部内にて管理している。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：（所属：薬剤部、職種：薬剤師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：「インフォームド・コンセントに関する方針・手順」において、包括同意にて同意を確認する医療行為、文書を用いた同意の確認が必要な医療行為、同席者が必要な医療行為、代諾者の定義、診療録記載方法等を明示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記に基づいたインフォームド・コンセントの状況のモニタリングを実施。 ・説明・同意文書の審査システムを構築。（具体的なシステム：説明・同意文書に必要な項目を網羅した院内の「雛形」に従って各診療科・部署で作成した説明・同意文書をインフォームド・コンセント委員会に申請し、委員による査読を経て承認後に診療録に登録する。） 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>初診時記録記載率、毎日の記録記載率、手術レコード 24 時間以内作成率、手術レコード出血量記載欄記載率、手術レコード検体名・検体数記載欄記載率、研修医の記載に対する指導医の追記率、退院サマリー作成率、複写による記載（コピー&ペースト）率、略語使用率などを定期的に監査し、医師全体への周知、診療科・個別の医師へのフィードバックを行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（9）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理のための指針の策定 2. 医療安全管理委員会の運営 3. 医療に係る安全管理のための職員研修の実施 4. 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして管理者が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者またはその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認および当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導 5. 医療安全管理に係る連絡調整 6. 医療安全の確保のための対策の推進（プロアクティブな活動を含む） 7. 医療安全の確保のための診療内容の現状把握並びに医療安全に関する職員の意識向上およびその状況確認 8. 各部門の医療安全対策の実施状況の評価に基づいた、医療安全確保のための業務改善計画書作成および、それに基づく医療安全対策の実施状況の評価とその記録 9. 医療安全管理者の業務および、医療安全管理室の活動実績の記録 10. 医療安全対策に係る取り組みの評価等を目的とした週1回程度の定期的なカンファレンスの開催 11. 入院患者の死亡の事実および死亡前の状況の確認、入院患者の死亡以外の場合で通常の経過では必要がない処置または治療が必要になったものとして病院が定める水準以上の事象が発生したときの当該事象の発生の事実および発生前の状況の確認および院長への報告 12. 院内における合併症の発症状況の確認 13. 年に1回以上の医療安全管理改善を目的とする他院の職員との相互訪問、評価、技術的助言の交換 14. 定期的な院内巡回による各部門の医療安全対策の実施状況の把握・分析と、医療安全確保のために必要な業務改善等の具体的な対策の推進 15. 各部門における医療安全推進者への支援 16. 患者サービス課クライアントサービス室との密接な連携による医療安全対策に係る患者・患者家族からの苦情・相談に適切に応じる体制の確保 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 2 件）、及び許可件数（ 2 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術の提供の適否等について高難度新規医療技術評価委員会に意見を求める。
 - 上記委員会の意見を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否等についての評価・決定を行う。
 - 提供された高難度新規医療技術の実施状況や遵守状況を確認する。
 - 提供の適否を決定した時及び上記状況を確認した時に、その内容について院長に報告する。
 - 高難度新規医療技術の提供体制の改善、技術の停止について院長に提言する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 1 件）、及び許可件数（ 1 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・活動の主な内容：
 - 未承認新規医薬品等の使用の適否等について未承認新規医薬品等評価委員会に意見を求める。
 - 上記委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否等についての評価・決定を行う。
 - 使用された未承認新規医薬品等の使用状況や遵守状況を確認する。
 - 使用の適否を決定した時及び上記状況を確認した時に、その内容について院長に報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 411 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったも

のとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 90 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全管理室が全死亡症例を診療録で確認し、検討のうえ、病院長および医療安全管理委員会に報告かつ検証をしている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：日本医科大学付属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：日本医科大学付属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

令和4年11月8日に立入、10月18日に受け入れを行った。

インシデント報告システムについて、「報告が簡単にできることは素晴らしいが、その後の事象確認において医療安全部門の負担が大きいと感じた。聞き取りを医療安全推進者に移行している最中とのことだが、部署責任者の役割が不明確に感じた。」との助言をいただいた。

助言を受け、医療安全推進者による聞き取りを促進したところ、2023年4-6月は全インシデント報告の約15%の事例について医療安全推進者による聞き取りが行われた。また対策がいつ実行されたかについて、部署責任者から医療安全管理部門にフィードバックしてもらう運用を検討している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口を設置し、医療安全等に関する要望・訴えを含む患者・患者家族等からの相談を受けている。患者が病院に対する各種要望・意見を投書するご意見箱と患者相談窓口寄せられた相談内容を患者サービス課が集計・分類・状況確認・対応方針の検討を行い、全件を関係者に情報共有すると共に、内容に応じてご意見対応ミーティングにて、管理者出席のもと、対応方針を決定している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新規採用者・中途入職者・復職者に対して医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関する院内研修と理解度確認テストを実施。

さらに全職員に対して、医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関する e-learning を通年開講し、全職員が年2回以上受講することとしている。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

① 院内研修

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を含む、院内の全職員に対して、医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関するe-learningを通年開講し、全職員が年2回以上受講することとしている。

② 院外研修

管理者（石松）特定機能病院管理者研修 受講（2023年1月26日）

医療安全管理責任者（服部）特定機能病院管理者研修 受講（2023年2月24日）

医薬品安全管理責任者（後藤）特定機能病院管理者研修 受講（2023年2月9日）

医療機器安全管理責任者（阿部）セコム医療システム株式会社 医療安全管理者養成講座プログラム（2022年度）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和3年12月20日—24日 Joint Commission International 認定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院HPにて公開

・評価を踏まえ講じた措置

評価：

①小児・新生児・3階手術室等の救急カートの内容・運用が標準化されていない。

②JCIでは同意書に書くべき項目を8つ定めているが、審査時に確認した同意書では6項目しか書かれていなかった。

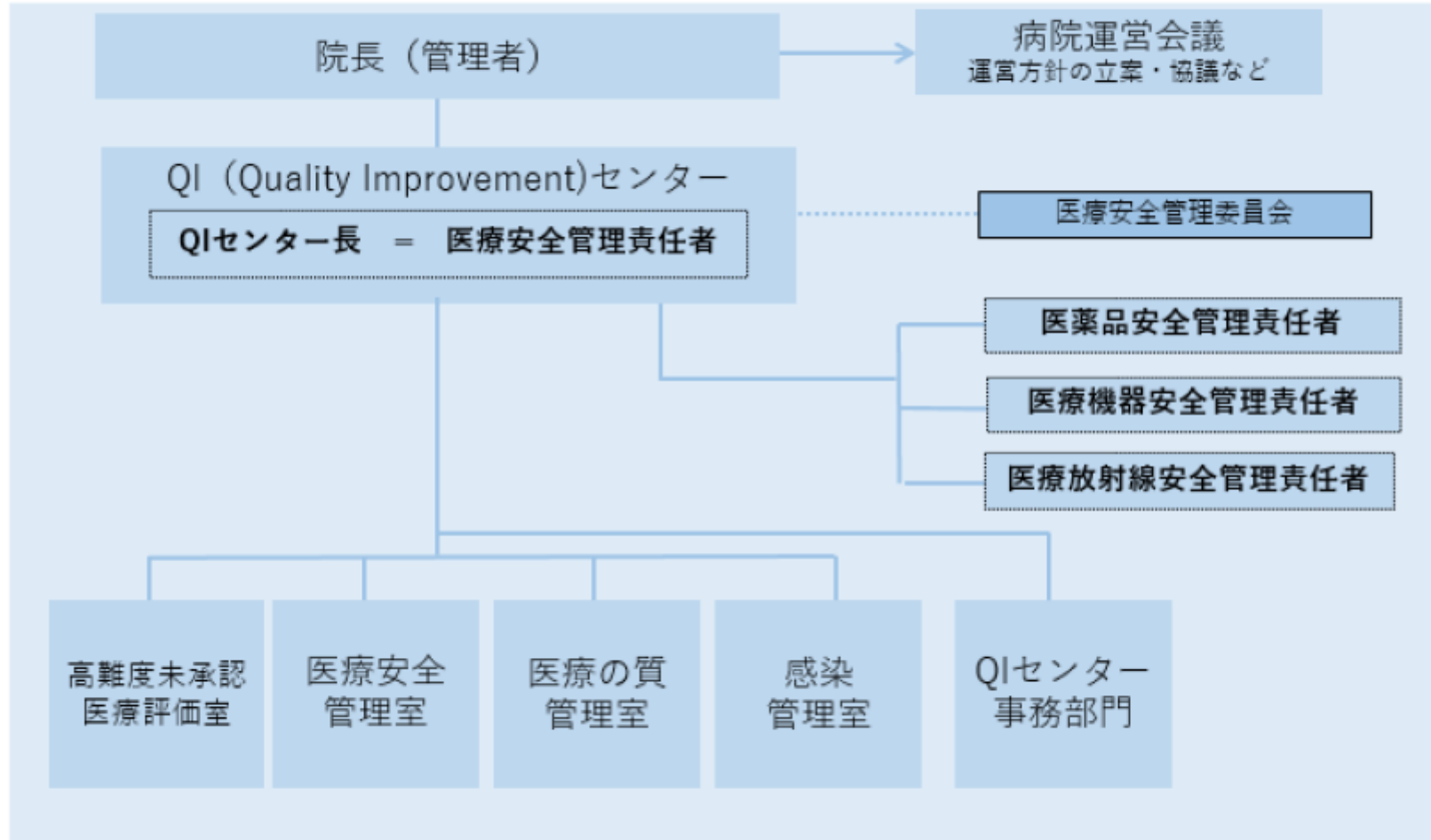
③中央滅菌室、内視鏡室で器材洗浄において耐貫通性の手袋を着用していない。

措置：

- ①産科領域を含めた成人・小児・新生児用の救急カートは、内容および管理方法含め、全て救急・集中治療部門運営委員会の管理下におき、原則として統一した内容とし、中央管理を行う。内容物・管理方法の決定・承認も救急・集中治療部門運営委員会で行い、「救急カートに関する方針・手順」に明記し、院内関係者に周知する。
- ②同意書に書くべき8つの項目を網羅した「雛形」を用いた説明・同意文書に移行することを、業務通達の発信によって院内に周知した。新しい雛形を用いた説明・同意文書移行を希望する場合には今年度中に申請手続きがなされ、申請がない文書は登録削除をする。
- ③耐穿破・切創および耐薬剤性が担保された製品の選定と、導入部署の検討を行う。

(注) 記載時点の状況を記載すること

医療安全管理体制



規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

聖路加国際病院院長任用規程より

(院長の資格)

第2条 院長は、人格高潔にして学識に富み、病院運営の方針を実現する医療面の責任者であるとともに、理事会の重要な一員として、法人の経営に参画するに相応しい者でなければならない。

2 院長は、聖路加国際大学学長を兼任できないものとする。

(院長候補者要件)

第8条 院長の候補者は以下の基準を満たした者とする。

(1) 聖路加国際病院（以下「病院」という）の理念を踏まえたキリスト教信徒であること。ただし、当該候補者がキリスト教信徒でない場合は、キリスト教精神を尊重する者であること。

(2) 日本国内の医師免許を有し、保険医の登録を受けている者であること。

(3) 医療の安全の確保のため、医療安全管理業務の経験を有し、患者安全を第一に考える姿勢及び能力を有している者であること。

(4) 病院の適正な管理運営に必要な資質及び能力、ならびに病院内外での組織管理経験を有している者であること。

(5) 高度医療の提供、高度医療技術の開発及び評価、高度医療に関する研修等、病院が行う医療およびその発展にリーダーシップを発揮できる者であること。

(6) 医療提供と安定的な経営とのバランスを考えた、健全で全体最適な病院経営を担える者であること。

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

- ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表

(病院紹介>情報公開>聖路加国際病院院長任用規程・聖路加国際病院院長任用細則)

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無			有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院運営会議で運営方針の立案・協議、経営管理・管理の実施に関する審議を行っている。 (聖路加国際病院 病院運営会議規程第2条) ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院管理協議会、部長管理医長会、事務連絡協議会など各種会議で周知。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表 (病院紹介>情報公開>病院運営会議規程) ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) 理事会、評議員会、常任理事会で外部有識者からの意見を聴取している。 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
石松 伸一	○	医師	院長
服部 一紀		医師	副院長 (医療安全管理責任者兼務)
有岡 宏子		医師	副院長
板東 徹		医師	副院長
北村 信人		医師	副院長
阿部 恒平		医師	医療機器安全管理責任者
栗原 泰之		医師	医療放射線安全管理責任者
鈴木 千晴		看護師	看護部長 (副院長兼務)
後藤 一美		薬剤師	薬剤部長 (医薬品安全管理責任者兼務)
神崎 扇洋		放射線技師	コメディカル部長
渡辺 明良		事務	法人事務局長兼病院事務部長
佐々木 新一		役員	理事長
堀内 成子		教員	学長
佐藤 剛		役員	常務理事
伊藤 数馬		役員	常務理事

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
病院ホームページにて公表
(病院紹介>情報公開>聖路加国際病院運営規則および学校法人聖路加国際大学稟議書運用細則)
- ・ 規程の主な内容
病院運営規則第8条において、院長の職務を規定している。
 - (1) 病院経営方針の立案。
 - (2) 病院の経営方針に基づく事業計画の策定と実行の管理。
 - (3) 病院各部門の業務計画の承認および実行の管理。
 - (4) 病院各部門の予算執行の承認および実行の管理。
 - (5) その他病院運営に関する院長業務。また、稟議書運用細則において、管理者が有する組織・人事等の決裁権限を定めている。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - (1) 副院長を4名任命し、経営方針の立案に参画等の職務を担う。
 - (2) 経営企画課において、病院運営における課題等に対する企画・立案・改善等に関する業務、病院業績指標に関する業務、その他病院運営に関する業務を行う
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - (1) 職能資格制度運用細則・役割等級制度運用細則に基づき、職位に応じた人事考課を行っている。
 - (2) 各職種の管理者に対して管理者研修を実施（年1回）
 - (3) 学会や外部研修などへの積極的な参加を呼び掛け、出張規程や所属部署の予算に基づき旅費・参加費の補助を行っている。特に「東京大学 高度医療経営人材育成プログラム」には、2019年度より延べ7名の事務職が参加している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>第 1 回委員会（2022 年 7 月 22 日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回委員会での助言・提言に対する当院の対応状況について ・ 医療機器安全管理委員会新規設置のご報告 ・ 医療事故の公表の方針のご報告 ・ 医療安全・感染対策に関する研修方法のご報告 <p>第 2 回委員会（2023 年 3 月 31 日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回委員会での助言・提言に対する当院の対応状況について ・ 11/17 医療法 25 条第 3 項立入検査の報告 ・ 12/20-24 JCI 認定更新審査の報告 ・ 医療事故発生時の公表の方針の検討 ・ 高難度新規医療技術の導入や未承認新規医薬品についての審査状況等報告 ・ CVC 制度全体像 ・ 定量的経時的にモニタリングしている項目の報告 <p>各回の助言・提言事項は、病院ホームページにて公開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法：病院ホームページで公表（病院紹介＞QI センター＞医療安全監査委員会） 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
相馬孝博	千葉大学医学部 附属病院 医療安全担当副 病院長 医療安全管理部 部長	○	千葉大学医学部附 属病院において医 療安全担当副病院 長を務められ、医 療安全に関する知 識や実績が豊富な こと。	有・無	1
滝沢牧子	群馬大学医学部 附属病院 医療の質・安全 管理部 副部長		群馬大学医学部附 属病院において医 療の質・安全管理 部の助教を務めら れ、医療安全全般 に関する知識が豊 富であること。	有・無	1
豊田郁子	患者・家族と医 療をつなぐNPO 法人 架け橋 理事長		長年にわたって医 療者と患者・家族 間の信頼関係の構 築を目的とした活 動を行っており、 医療を受ける者の 代表として適任で あること。	有・無	2
中島勸	埼玉医科大学総 合医療センター 病院長補佐（安 全担当） 医療安全対策室 長		埼玉医科大学総合 医療センターにお いて病院長補佐（ 安全担当）、 医療安全対策室長 を務められ、医療 安全に関する知識 や実績が豊富であ ること。	有・無	1
渡邊俊太郎	翼法律事務所 弁護士		関連法務から企業 法務まで幅広い分 野で活躍され、医 療事故調査委員と しての実績も十分 なこと。	有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
専門部署として内部統制監査室を設置。
そのほか、理事会および常任理事会（監事が出席）も同様の役割を担っている。

- ・ 専門部署の設置の有無（ ・ 無 ）

- ・ 内部規程の整備の有無（ ・ 無 ）

- ・ 内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）

- ・ 公表の方法 病院ホームページで公表

（病院紹介＞情報公開＞「学校法人聖路加国際大学内部監査細則」、「学校法人聖路加国際大学
寄付行為」、「学校法人聖路加国際大学寄付行為施行規則」および「学校法人聖路加国際大学常任理
事会規程」）

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 学校法人聖路加国際大学寄附行為に基づき、理事会が病院の管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 定例：年3回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（定例：年3回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法 （病院紹介>情報公開>「学校法人聖路加国際大学寄附行為」「学校法人聖路加国際大学寄付行為施行規則」） 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法
病院管理協議会でのアナウンス、院内メールで周知、ポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページにおいて発信 キリスト教精神に基づき、先端的な教育・研究に支えられた「質の高い安全な医療」を実践する高度急性期病院でありながら、緩和医療や外来診療が中心となる分野まで広くカバーする総合病院の在り方を追求し、患者さんと社会から信頼される医療を提供する。</p> <p><病院運営の基本方針></p> <ol style="list-style-type: none">1. 「患者との協働医療」を実現するため、患者の価値観に配慮した医療を行う。2. 医療の質を高めるため、「根拠に基づいた医療」を実践する。3. 全人的医療を行うため、全職員の専門性を結集する。4. 地域住民の医療・介護・保健・福祉に貢献するため、地域の医療者・施設と連携する。5. 国内外の医療の発展に資するため、優れた医療人を育成する。6. 医療の発展に寄与するため、現場に根ざした研究を行う。7. 国際病院としての役割を果たすため、海外からの患者の受け入れ態勢を整える。8. 上記7項目を実現し継続するため、健全な病院経営を行う。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 疾患ごとに診療科横断的な治療を目的とし、下記の通り複数の診療科・多職種から構成されるセンター化を推し進めている。 小児総合医療センター、救命救急センター、ブレストセンター、腎センター、リウマチ膠原病センター、周術期センター、認知症疾患医療センター、ヘルニアセンター、生殖医療センター、AYA サバイバーシップセンター、スポーツ総合医療センター、がんゲノムセンター、ロボット手術センター、オンコロジーセンター、リハビリセンター、遺伝診療センター、呼吸器センター、消化器センター、心血管センター、脳・神経センター、リエゾンセンター</p>	